

# 四役の声

## UIA 東京大会と新生 JIA

副支部長  
上浪 寛



■私は支部では副支部長ならびに UIA 東京大会支部準備委員会委員長、本部では定款改定特別委員会委員と実務委員会委員、また JOB (UIA 準備日本組織委員会：UIA 東京大会のため国と建築 5 団体を中心とした合同組織) の広報副会長として活動しました。UIA 大会は残すところ後 1 年半足らずとなり、特に広報はこれからの 1 年間で勝負で、メンバーは日々手分けして活動に精を出しております。JIA 先輩たちの悲願であったこの大会開催の意義を再確認し、この時代に生きる会員にとっての大きなチャンスとして捉え、UIA 大会を成功に導く一助になりたいと考えています。

昨年 8 月には次期支部長選挙に立候補をしました。これも、UIA 大会の成功へ寄与したいという思いと、新しい法人形態選択をきっかけに、若い建築家にも魅力的でサスティナブルな新生 JIA を目指す一助になりたいと考えたからです。

選挙では多くの会員の皆様に応援していただきました。この紙面をお借りして感謝申し上げます。選挙を通じて早い段階で会員の皆様から直に激励や要望を聞くことができました。UIA 大会開催ならびに新法人形態移行にともなう定款改定という大きな課題を 2 年間の任期中に抱え、火中の栗を拾うようなものかもしれませんが、新執行部ともども、会員の皆様の協力を賜りながら運営していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

〈(株) 構想建築設計研究所〉

## JIA 活動を支える正会員と賛助会員の交流

副支部長  
東條 隆郎



■ JIA の活動は、建築家という職能理念に基づきその資質向上とともに、社会的資産・文化的資産として質の高い建築やまちなみを創り出していくための社会貢献が目的の一つであると思います。関東甲信越支部では、その JIA 活動の大きな柱の一つが地域会活動です。2008 年度に目黒地域会が出来、9 の県の地域会、14 の東京の地域会となり、関東甲信越全域に活動の拠点が出来ました。2009 年度も所属する建築家が JIA 支部・地域会をプラットフォームとして様々な活発な活動を行なっています。また、これら支部の様々な活動には賛助会の参加・支援があります。会費とともに賛助会からの財政支援により支部の活動が支えられています。この賛助会会員と正会員との相互の交流・研鑽を目的として交流委員会があり、業種別に A から G のグループがそれぞれ活発に活動しています。様々なセミナーや建物視察、新技術・新製品情報の会員への発信、毎年開催されている交流大会などを通じて正会員との交流を図っています。我々の活動は我々のみではなく多様な人々との関わり・協働のもと行われています。正会員と賛助会会員との交流もその一助になると思います。今後も多くの正会員と賛助会会員との活発な交流が図られることを望みます。

〈(株) 三菱地所設計〉

## 日本建築家協会の今後の課題

副支部長  
野生司 義光



■今、日本建築家協会で、一番の問題は財政である。

仙田会長および松原支部長時代に、財政検討のタスクフォースを作り、本部が会費 36,000 円のうち 18,000 円を本部が予算として取り、仙田会長は「十分ではないが、この金額で本部会計を乗り切ると約束した。残りを各支部にて分配する形で、予算を決めた。残りの不足分は各支部で集める形になり、関東甲信越支部では、最初の 1 年は緊急拠出金として、10,000 円を会員から集めた。次年度からは、6,000 円を支部会費として集めることになった。それで何とかお金の話は、一段落ついたと誰もが思った。しかしながら、次期会長選で、仙田満さんが敗れ出江寛さんが会長に決まり、続いて専務理事も柳澤氏から森田氏に代わり、トップ 2 人が変わって、財政再建が最重要課題となった。この 2 人が、今期限りで退くが、残した課題はあまりにも大きい。年間 5,000 万もの赤字を作ってしまった。会員一人当たり 10,000 円の会費増の金額である。

今、家協会には貯えがない。UIA 大会も来年に控えている。そちらは後、3 億円集めなくてはならない。この難題を背負って、芦原会長がスタートする。

大変なことである。

〈(株) 野生司環境設計〉